

人文学報 21号合評会

5月9日

出席者 上山, 牧, 藤岡, 佐々木 松原

梅原, 谷, 米山, 小西, 加藤, 石毛

A. 藤岡論文評

1. 論文の骨組

Fz : Culture and Personality Theory はウリだということから、本論の考えができた。 Culture は Personality のなかに assimilate されていると考え、この2つを一元化しようと試みた。

Mk : 「社会における個体のかかわりかた」「個体のゲニユタルト統合の能力」この2つの原理をジヤネのように一本化しないわけは？

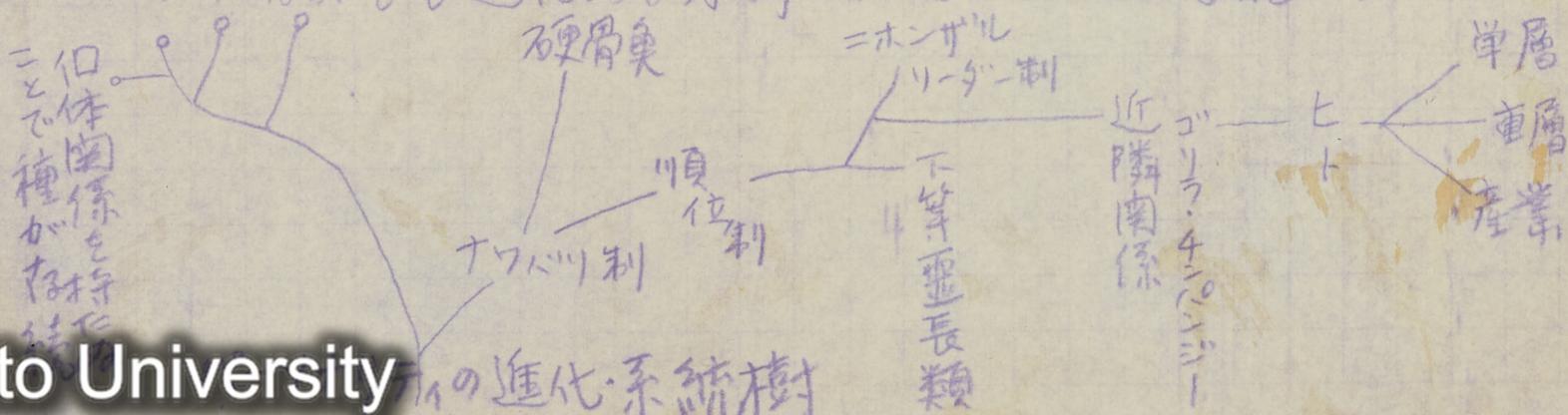
Fz : P. 23で二つの原理をはっきり別にしていくわけではなく、相まかわりあうものとして認めている。
便宜上、個体中心と集団中心の二つの原理をあげた。

Sa : 二つの原理と歴史はどう関係するか？ 二つの原理のもっとも高い到達点か？ 歴史と考えるとよいか？

Fz : yes.

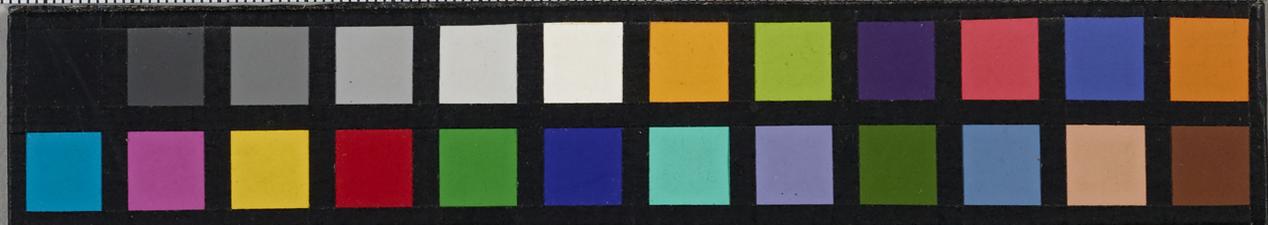
2. ホーソリティの進化史

Fu : 硬骨魚類には Territoriality があるが、進化のおくれた軟骨魚類にはない。 トリのなかにも despot が認められるが、Territoriality があるかどうかわからぬものがある。
トリのなかでも進化的な序列を考えることが可能だ。



Kyoto University

の進化系統樹



3. 個人史の成立

Fz : 重戸社会になると、はじめて人物の厂史が成立する。

Sa : 重戸以前の社会や田舎で個人の厂史を聞いたらしい厂史になってしまふ。

Fz : 血縁・地縁までは, ascribed であるが, 産業社会では achieved な原理によってつらぬかれる。achieve するとき、一つの個人が血縁団体・社縁団体などを通過する複雑さのうちで、空中分解しないよう、産業社会になると個人の厂史が統合力として、必要となる。

Uh : 産業社会のニッチエに適應するには、個人に采制の可能性を必要とすることと、厂史意識を形成することには関係がある。

Sa : 農村社会の複雑な血縁組織を通りぬけるとき、すでに厂史があるのでないか？

Uh : 産業社会では個人が慣習では生きられなくなり、撰択・価値決定をしなくてはならぬようになる。
近代小説の発生などを考えると Fz 説に賛成。代...
帝国段階では年代史、封建時代では、~~このなにかし~~という名のりあげ、産業社会では、個人の撰択史と厂史意識の単位がだんだん小さくなる。

Mt : 遊牧社会の個人中心の社会では differentiation が大きいはずだ。産業社会の differentiation の厂史とはどちらか？

Kt : 親の経験と子の経験が同じ社会と世代によって経験がちがう社会を区別する。経験にずれがあるとき、個人史が発生する。
遊牧社会と産業社会の厂史の相違は、ここにもとめられよう。

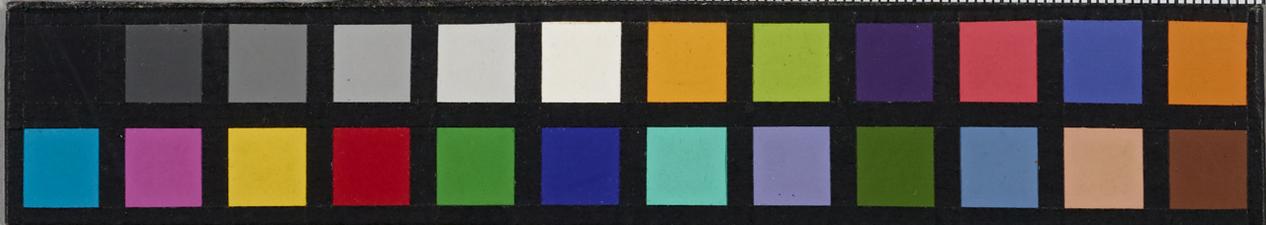
Fz : ロールマンを遊牧民についてやったら、カウヨラムの結果に近い単純なものになるだろう。

Ig : 古代都市の市民は個人の厂史を持っていた。

Fz : 産業社会になると皆が厂史を持つようになった。

B. 上山論文合評

1. 目的論と機械論



Un : この論文の意図には、社会科学への力学モデルの導入がある。
社会科学は産業社会の組織原理である。
マルクスとウエーバーは目的論と機械論のちがいである。
機械論でとらえられないところを目的論で相補しようというのか
この論文の意図である。価値の問題になったとき、機械論では
可能性の枠がくくれないところがある。
目的論には円環型がある。

Tn : トインビーには目的論があるか？

Un : 不徹底な目的論。植物モデル。各々のあいたちの位置づけはない。
下史理論としては工合がわるい。productiveではない。

2 社会人類学の位置づけ

Ig : 文化人類学は人文科学、社会人類学は社会科学に位置すると考
えてよいか？

人内にかんする子由

Un : わたしは学内を精神科学と社会科学に分類する。文化人類学はそ
の中間的なもの。(心理学+社会学) 経済学でも限界功利説とい
は心理学と接点をもっている。

Un, Kt : 学説史的に社会人類学を工業社会のなかに位置つけたら、ペリフェ
ラ的なところへくる。

Ig : Unは社会人類学を比較社会学的、機械論的に位置づけるか？

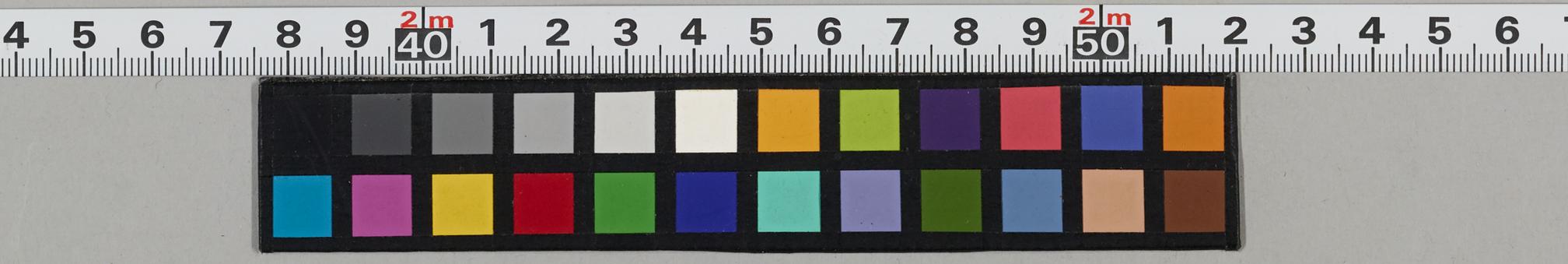
Un : 果敢では policy science の一つになっている。人類学者の感情
には、現代社会はかなわんというロマンのかけりがあるが、結果
的には Policy Science として機能しやすいところがある。

Yn : Policy に参考した実例は少ないのではないか？ Power Politics
と無関係である面が強い。むしろ、Policy に強く参考すべきだ。
南北問題など。

Sa : 宣教師で人類学をやった者を考えたら、植民地政策への参加した
度は大きい。

Un : 日本では植民地がないから、Policy Science と違った方向をひ
らく可能性を持つ、という。

Yn : 社会人類学は工業社会の組織原理をも明らかにしようという方向
づけをするべきだ。社会学にとっかかわるべきでない。
社会学は現在学に終始している。



3. 人間中心主義

anthropo



Fz : 今西さんの考えに ~~homocentrism~~ ^{anthropo} ~~ism~~ があるというのはどういうことか?

Un : 生物学の今までの成果をふまえたうえで、生物学ではくくれないところを、人間側からの感情の投影によって説明しようとしている。

Ig : 社会人類学は人間中心というところがあり、機械論にはたらない。そこらに社会学と違うところがある。

4. ムッペラボー主義と目鼻つけ

Kt :

人間を見る見方

① ムッペラボー主義 — 個性を認めぬ

② 目鼻つけ — 文学

↑
人類学

Un : ムッペラボー主義では目的は外からくる。
目鼻つけのときは、自由意志が働く。

Sa : マリノフスキーの basic need の説明などは、ムッペラボー主義だ。

